

シリーズ

『吟士権を 得るまで』

平成20年度 吟士権者

秀詠グループ員 塩路澄誠



時は、平成14年7月、小生は日総連近畿地区決勝大会の決勝に残ることが出来て、まさにこれから決勝吟詠審査を受けるところでした。会場は超満員、吟者控え室の舞台袖で待つファイナリストたち。そんな中、閑散としたトイレへ向かった小生は、急に気分が悪くなり、そこで倒れていたら誰にも発見されずに手遅れになって絶命していたでしょう。運良く、ロビーにフラフラと戻って、ソファに腰掛け意識がなくなつた。幸いに発見してもらえ、救急車で病院搬送。急性心筋梗

塞でした。心臓バイパス手術で一命を取り留め、1ヶ月の入院と退院後自宅静養1ヶ月の計2ヶ月。その後、社会生活に復帰しましたが、開胸手術でメスを入れていたせいか、身体に力が出ず、声帯も肺への人工呼吸管挿入が原因で、擦れて痛めていた模様。カスカスの声で吟声に程遠く、その後の数年は、詩吟のコンクールに出場しても、以前のようにな力が出せなくて惨めな成績が続き、すっかり意気消沈した日々には憂鬱な毎日でした。

そんなある日、吟友から一冊の本を紹介してもらい、半信半疑で始めたら、目からウロコ、これにかけようと藁をも掴む思いでボイストレーニングに励みました。その結果、大病からの5年越しに吟声が蘇り、関西吟詩全国指導者級吟士権者決定吟詩大会で、3位、2位、そして平成20年度に吟士権優勝と順繰りの

タイトルを獲得することができました。爾来、同大会の後期歴代優勝者で順繰り編成される名誉と研鑽のために設営された「秀詠グループ」の一員としてのお役に付かせて頂いています。

個人的には、小生の喉を救ってくれた「基礎発声」の普及をライフワークに据えて、認定ボイスインストラクターの称号を得て、オフアールに基づく後進のサポート等に邁進させていただいております。

平成30年度には、念願の大阪府詩吟連盟主催の2部指導者級吟士権者の称号を頂くことができました。

関西大学吟詩部の学生時分から途切れずに続けてきた詩吟生活、数えると48年目を迎える小生ですが、一生初心の精神を忘れず、仕事が一段落したら、お世話になった関西吟詩の発展のために、自らの持ち味を発揮できるお役目あれば、それにお応えしていくライフワークにしたいと考えています。

つたない小生のお話をお聞き願いましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念して、次に執筆される方へのバトンタッチとさせていただきます。おわり